



2008年10月23日

各 位

会 社 名 大日本住友製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長 多田 正世
コード番号 4506(東証・大証・名証各第1部)
問合せ先 広報部長 樋口 敦子
(TEL. 06-6203-1407)

精神神経分野における創薬コンソーシアム「ネディック」設立のお知らせ

大日本住友製薬株式会社(本社:大阪市、社長:多田正世)は本年11月に、国立大学法人大阪大学(本部:大阪府吹田市、総長:鷺田清一)大学院の医学系研究科、薬学研究科の計5講座とともに「精神神経創薬コンソーシアム」〔略称:NDDC(ネディック)、Neuropsychiatry Drug Discovery Consortium〕を設立しますので、お知らせします。

統合失調症やうつ病に代表される精神疾患は、罹患者数が多く、Quality of Lifeに与える影響が大きいため、その有効な治療法が求められています。これらの精神疾患の薬物治療においては、過去50年間に亘って、“セレンディピティ(幸運な偶然による科学的発見)”に端を発して創製された薬剤が最も大きな役割を果たしてきました。

しかしながら、近年の精神疾患基礎研究の急速な進展により、遺伝子/分子レベルでの疾患発症機序に立脚した創薬が行える環境が整いつつあり、従来の治療薬にはない特長を有する革新的治療薬が創製される可能性があるかと期待されています。

大日本住友製薬は、精神神経領域を研究指向領域の一つと位置づけ研究開発を推進しており、統合失調症治療剤としては、自社開発の「ルーラン[®]」、「ロナセン[®]」等を販売中であり、「ルラシドン」(一般名)をグローバルに開発中です。さらに、精神疾患分野における基礎研究の臨床への応用に貢献するために、本年10月に大阪大学大学院医学系研究科に「分子精神神経学(大日本住友製薬)」の寄附講座を開設しました。

大阪大学大学院においては、複数の精神疾患リスク遺伝子に関する研究が医学系研究科と薬学研究科の連携により進められています。このような遺伝子レベルの研究に加え、細胞レベル、生体レベルの各階層の研究も並行して行われており、分子から生体までの包括的研究体制が整っています。

精神神経領域で研究開発経験を有する大日本住友製薬と精神疾患発症機序に関する包括的な研究に実績を有する大阪大学大学院の医学系研究科・薬学研究科が、精神神経創薬コンソーシアムを設立し、共同研究をすることにより、基礎研究の臨床への応用を促進し、精神疾患分野における医療に大きく貢献できるものと期待しています。また、他のアカデミアが今後この創薬コンソーシアムに参画することを検討しています。

(ご参考)

精神神経創薬コンソーシアム「ネディック」の概要

【参加研究組織】

大阪大学大学院

医学系研究科

神経機能形態学教室 (遠山正禰 教授)

精神医学教室 (武田雅俊 教授)

分子精神神経学 (大日本住友製薬) 寄附講座 (伊藤彰 寄附講座教授)

薬学研究科

神経薬理学分野 (馬場明道 教授)

複合薬物動態学分野 (松田敏夫 教授)

大日本住友製薬

【研究内容】

遺伝子/分子レベルでの精神疾患発症機序研究に基づいて、新規創薬標的を見出す。加えて、そのために有用な新規技術を開発するとともに、薬剤の有効性予測に役立つ臨床評価技術構築などを進める。

【研究期間】 2008年11月～2011年10月 (1期3年間)

以上